

事後評価結果（令和4年度）

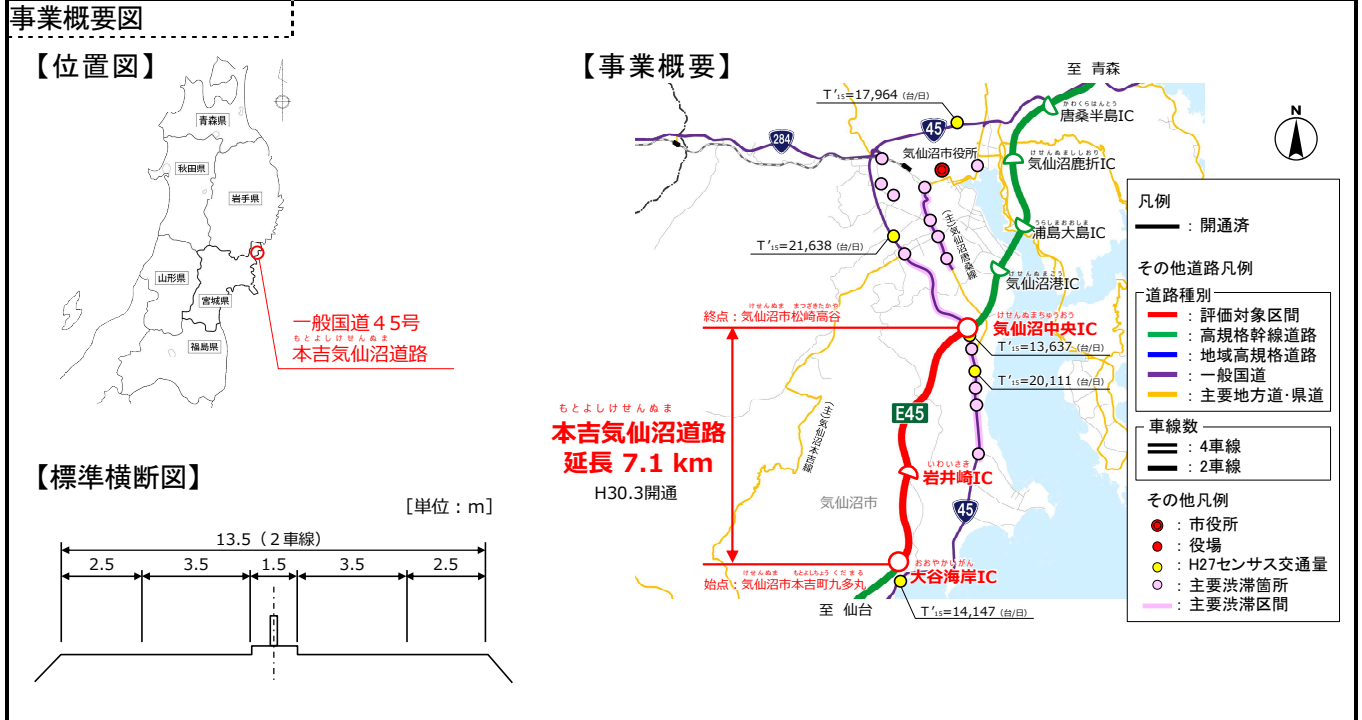
担当課：東北地方整備局 道路計画第一課

担当課長名：柏 宏樹

事業名	一般国道45号(三陸沿岸道路) 本吉気仙沼道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	白：宮城県気仙沼市本吉町九多丸 至：宮城県気仙沼市松崎高谷	延長	7.1 km		

事業概要
 一般国道45号(三陸沿岸道路登米IC~釜石JCT)は、宮城県登米市から岩手県釜石市に至る約111kmの復興道路である。
 本吉気仙沼道路は、三陸沿岸道路の一部を形成し、宮城県気仙沼市本吉町九多丸から宮城県気仙沼市松崎高谷に至る延長7.1km、2車線の自動車専用道路である。

事業の目的・必要性
 本吉気仙沼道路は、事故減少、災害時の信頼性の確保、救急医療支援、地域産業支援・物流支援、観光・地域交流支援、企業活動支援、気仙沼市の復興まちづくりを支援することを目的とした三陸沿岸道路の一部を構成する事業である。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度:平成18年度 都市計画決定:平成18年度	用地着手:平成20年度 工事着手:平成21年度	供用年 (当初) —/H27年度 (暫定/完成) —/H29年度	変動	1.2倍	
	事業費	計画時 (暫定/完成) (名目値) — / 201億円 (実質値) — / 237億円	実績 (暫定/完成) (名目値) — / 255億円 (実質値) — / 296億円		変動	1.3倍	
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成) (H17) — / 16,600台/日	実績 (暫定/完成) (R4) — / 13,600台/日		変動	82%	
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	23.1 → 78.8 km/h (供用直前年次)H27年度 (供用後年次)R4年度	交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	123.9 → 60.5 件/億台キロ (供用直前年次)H20-22年度 (供用後年次)H30-R2年度			
	費用対効果分析結果 (当初)	B/C 5.6 総費用 173億円 事業費: 147億円 維持管理費: 26億円	総便益 975億円 走行時間短縮便益: 799億円 走行経費減少便益: 132億円 交通事故減少便益: 43億円	基準年	平成17年		
	費用対効果分析結果 (事後)	B/C 1.3 総費用 399億円 事業費: 355億円 維持管理費: 44億円	総便益 502億円 走行時間短縮便益: 379億円 走行経費減少便益: 103億円 交通事故減少便益: 20億円	基準年	令和4年		
事業遅延によるコスト増	費用増加額	— 億円	便益減少額	— 億円			

	事業遅延の理由 ・特になし
	交通量変動の理由 ・東日本大震災以降、三陸沿岸道路の整備により周辺の道路ネットワーク状況が変化したため。 ・気仙沼市からの発生集中交通量が減少したと推測されるため。
	客観的評価指標に対応する事後評価項目 ① 円滑なモビリティの確保 ・気仙沼市から国管理空港である仙台空港へのアクセス性が向上（整備前：152分→整備後：120分） ② 安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス性が向上（気仙沼市立病院～石巻赤十字病院 整備前：78分→整備後：63分） ③災害への備え ・宮城県緊急輸送道路ネットワーク計画において、「第一次緊急輸送道路」に位置づけあり ・国道45号（第一次緊急輸送道路）の代替路となる <p style="text-align: right;">他10項目に該当</p>
	その他評価すべきと判断した項目 ・特になし
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目 ・特になし
	その他評価すべきと判断した項目 ・特になし
事業評価監視委員会の意見 ・「今後ネットワークとしての事後評価を実施し、改善措置の必要性等を検討する」という対応方針（案）は妥当である。	
事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・周辺道路の整備状況 三陸沿岸道路 平成29年 3月 南三陸道路（志津川IC～南三陸海岸IC 延長3.0km）開通 平成29年 3月 矢本石巻道路4車線化（石巻女川IC～桃生豊里IC 延長12.1km） 平成29年12月 南三陸道路（南三陸海岸IC～歌津IC 延長4.2km）開通 平成30年 3月 本吉気仙沼道路（大谷海岸IC～気仙沼中央IC 延長7.1km）開通 平成30年 7月 唐桑高田道路（陸前高田長部IC～陸前高田IC 延長6.5km）開通 平成31年 2月 歌津本吉道路（歌津IC～小泉海岸IC 延長10.0km）開通 平成31年 2月 本吉気仙沼道路（Ⅱ期）（本吉津谷IC～大谷海岸IC 延長4.0km）開通 平成31年 3月 唐桑高田道路（唐桑小原木IC～陸前高田長部IC 延長3.5km）開通 令和 2年 2月 気仙沼道路（気仙沼中央IC～気仙沼港IC 延長1.7km）開通 令和 2年11月 歌津本吉道路（小泉海岸IC～本吉津谷IC 延長2.0km）開通 令和 3年 3月 気仙沼道路（気仙沼港IC～唐桑半島IC 延長7.3km）開通 令和 3年 4月 歌津本吉道路の歌津北ICにおいて、北向きランプの追加に着手	
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 ・事業の目的に対する効果を概ね発現しているが、今後ネットワークとしての事後評価を実施し、改善措置の必要性等を検討する。	
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 ・当該事業の整備目的について効果発現を確認できており、事業評価手法の見直しの必要性はない。 なお、今後のネットワーク完成にあたり、今回同様ネットワーク全体での効果の検証に努める。	
特記事項 ・特になし	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。